



湿雪ずっしり。でも… 雪かき助っ人、みるみるうちに作業完了！

「雪かきワークショップ」で参加者が住民と交流深める（マキノ町在原で）

【特集】ごみの減量と処理経費の節減に向かって「キーワードは5R」 ②－③

お知らせ拡大版 …… ④－⑥	教育委員会 information …… ⑨	びょういんだより …… 17
タウンピックアップ …… ⑥	健康生活 …… 10	そうだ図書館に行こう …… 18
みんなで5・7・5 …… ⑦	暮らしの情報 …… 11－15	窓口だより …… 19
消費生活相談・省資源 …… ⑧	国保年金あらかると …… 16	歴史散歩 …… 20



朽木家に残る文書

文書を納める櫃には
「承久以来古文書」と
書かれています。

※承久・・・1219年～

編集後記

有っても無くても悩まされるもののひとつに「雪」があります。今年は、マキノの山間部で通常生活が困難になるほどの大雪に見舞われた一方で、朽木では雪不足がスキー場の営業に大きな影響を及ぼしました。有ってほしい所にはなくて、無くてもよい所には要らないほどあるとは何とももどかしいものです。冬季五輪の会場であるバンクーバーにも通ずるものがありますね。自然を舞台とする冬の祭典は、雪を運び入れる異常事態。環境を主要テーマに掲げる大会にとっては皮肉とも言える光景です。しかしそれは、「地球の微熱」の深刻さを改めて訴えかけているようにも見えます。

（広報担当〇）

朽木文書とは、鎌倉時代以来、明治維新に至るまで朽木谷の領主であった朽木家に伝わった古文書・典籍のこととをいいます。

朽木家は、鎌倉時代以来、現在に至るまで、連綿と朽木の地にある家で、鎌倉時代においては鎌倉幕府の御家人として、室町時代においては室町幕府の御家人として、本貫（出身）地近江国朽木荘を拠点に、領主支配を展開しました。さらに、戦国時代、織田・豊臣期を生き延び、江戸時代においては参勤交代をする旗本（交代寄合）として、朽木の地を動くことなく明治維新を迎えました。中世から近世にかけて一貫

朽木文書

全国的に貴重な鎌倉・戦国時代の文書群

して同一地に存在し続けた領主としては、全国的に稀な存在です。

また、本貫地を動かなかったというだけでなく、鎌倉時代以来明治時代に至るまで、多量の家に伝わる古文書を残しています。全国的には多くの家が南北朝時代から戦国時代に起こった幾度もの戦乱で家が断絶したり、織田・豊臣期や江戸時代において、他の地へ転封させられた家も多く、転封の際に古文書が散りうせることがよくありました。朽木氏の場合、数々の戦乱を生き抜き、本貫地を離れず、古文書の価値を幾度となく再認識し伝えてきたことにより、多くの古文書を今日に残す

ことができました。とくに鎌倉から戦国時代にかけての中世文書は、畿内・近国に居住した領主層の残した古文書群としては唯一の質と量を誇ります。そのため多くの研究者の注目を浴び、研究がされてきた結果、朽木氏の存在形態が畿内・近国の現地に居住する領主像の一つの典型として評価されています。

朽木文書の総点数は、約1,500点です。その多くが鎌倉・室町・戦国の各時代にあたる中世の文書です。中世の武家の文書がまとまって残っているところに、その特徴があります。

朽木文書の残存した大きな理由の一つは、戦国時代から織田・豊臣期に生き残ったことです。湖西地方の武家領主のほとんどが、織田信長との戦いの過程で滅び去ったために、家の古文書も残ることはありませんでした。

また、近世になるとほとんどの大名が、天下人であった豊臣秀吉や徳川将軍家

の命令により、古くから住んでいた土地を離れ、新しく命じられた土地に移らなければなりません。このような大勢のなか、朽木氏は一度も朽木の地を動くことなく明治維新を迎えたのです。

明治21年に朽木家の中世文書の大部分が売却され、内閣記録局が所蔵しました。この「朽木家古文書」1,066通は、その後、畿内・近国のまとまった中世文書として、全国的にも貴重であることから、平成元年に国の重要文化財に指定されました。

また、現在朽木家が所蔵する史料としては中世文書を中心とする427点があり、平成20年に高島市の有形文化財として指定されました。この史料は、本来、重要文化財である国立公文書館所蔵分とひとまとまりになるべきもので、伝来の過程で二つに分けられてしまったのです。

（朽木村史編さん室）